

第43回 全国トラックドライバー・コンテスト

講 評

平成23年10月24日

(社) 全日本トラック協会

専務理事 細野 高弘

第43回全国トラックドライバー・コンテストは、一昨日からの2日間にわたり、茨城県ひたちなか市の自動車安全運転センター安全運転中央研修所で開催されました。東日本大震災の影響により宮城県、福島県が参加できないことも影響し、参加人数は前年より少ない133名となりました。

初日は朝から大雨で開催が危ぶまれましたが、午後になって薄日が出てきました。後半、霧も出はじめましたが、なんとか整備点検競技を終えることができました。2日目は前日夜の雨も上がり、競技中は曇から晴れ間も出る天気となりました。応援の方も両日で800名を超える参加となり、選手の皆さんも応えて競技に取り組めたことと思います。

休日にもかかわらず競技の審査をお願いいたしました自動車安全運転センター安全運転中央研修所の皆様に改めて感謝申し上げます。また、整備点検競技のアシスタントをお願いした自動車会社各社の皆様にもお礼を申し上げます。

それでは講評を申し上げます。

学科競技については、満点は4トン部門に1名だけとなりました。昨年の16名に比べて大幅に減りました。総平均点も400点中342点で昨年の正答率90%超には及びませんが、85%を超える成績でした。

誤答率の高い問題を3つ説明します。構造機能の49番、前部潜り込み装置の問題で正解ですが、56%の方が間違いと回答しています。後部突入防止装置もほぼ同じ条件ですので、巻き込み防止装置と間違われたのかもしれませんが。運転常識の71番、運転者が交替する運転者への通告内容の問題で、これは間違いですが60%の方が正解と回答しております。通告内容は気象ではなく道路及び運行の状況です。運転常識の80番、運転者の拘束時間の問題で正解ですが、60%の方が間違いと回答しております。拘束時間の計算は始業時から連続する24時間の中で計算することとなっております。

今回から四者選択問題を一部採用しましたが、正答率も概ね良好でありました。

整備点検競技では、昨年とほぼ同率の133名中65名が満点で、総平均点は191点でした。部門別平均点では、4トン部門が195点、11トン部門が193点、トレーラ部門が192点、女性部門が176点で、いずれも好成績でした。

作為箇所未指摘として見落とした方が多かったのは、例年通りタイヤの空気圧不足が32名でした。液量関係の見落としが4トン部門で4件、11トン部門で3件、トレーラ部門で3件、女性部門で4件ありました。また、ウォッシュ液の噴射未指摘が女性部門で4件ありました。灯火については、制動灯の不

点灯が設定されましたが、未指摘は4トン部門が0件、11トン部門で1件、トレーラ部門で1件、女性部門で5件でした。後退灯も同様でしたが、未指摘は4トン部門が0件、11トン部門が1件、トレーラ部門が0件、女性部門が1件でした。灯火については総じて良い結果ではあったかと思えます。

ディスクホイールの取り付け不良も11トン部門とトレーラ部門に設定されておりましたが、指摘できなかったのは、トレーラ部門の2件だけでした。タイヤの空気圧、灯火器関係の誤った指摘等もまだまだあります。特に女性部門のワイパー関係、ウォッシュ液関係、ブレーキ液関係の誤った指摘が目立ち得点を下げる原因となりましたが、総じて点検手順も含めて年々技量は向上していると感じられます。

運転競技では、全体に厳しい採点結果となりましたが、上位者は400点満点中4トン部門で398点、11トン部門で399点、トレーラ部門で397点、女性部門で366点という高得点をあげました。車庫入れに新方式を採用いたしましたが、4トン部門で3cm 差の2点減点、11トン部門で2cm 差の1点減点、トレーラ部門で4cm 差の2点減点、女性部門で1cm 差の1点減点の方もいらっしゃいました。

課題走行では、慎重に運転した結果、基準時間超過となるケースが見受けられました。赤点減信号で停止線を越えたり、一時停止位置での完全停止が徹底されていないこともありました。また、同乗者へのシートベルト着用指示がないケースもありました。これらのことは、運転の基本中の基本でありますので、是非徹底していただくようお願いいたします。

合計の最高得点は988点、次点が981点という高得点でした。

各部門の入賞者の氏名は、このあと発表されますが、残念ながら入賞できなかった皆さんも含めて、全国大会に参加したという誇りを胸に、事故ゼロを目指して、これからも交通安全と環境にやさしい運転の励行に努め、広く社会に貢献される模範的な運転者として活躍いただくようお願いいたします。

以上で講評を終わります。